

学校名 志木市立志木第二中学校

所在地 志木市館1-3-1

電話 048-473-2379

## 1 本校の概要

緑美しく静かな住宅街である館町志木ニュータウンと再開発地域を含む歴史ある幸町の2つの町を学区としており、昭和48年に開校し今年度41周年である。今日まで本校は、保護者、地域と一体となり社会に貢献する多くの人材を輩出している。保護者、地域住民の教育に関する認識や関心は非常に高く、学校に対して協力的である。それに応えるため、本校独自の読書活動を展開し、感性を磨き、語彙を増やすとともに言語能力・表現力を培っている。

## 2 本校の実践

### (1) 実践の視点

読書活動の充実ならびに豊かな情操の陶冶

### (2) 実践の概要

本校では、「聞くことで情景や心情を思い描くことのできる子を育て、ひいては心を育てることにつながる」また、「読書へのきっかけづくりになる」という考えのもと、平成22年2月から図書ボランティアによる読み聞かせを取り入れてきた。その他、読書推進活動ならびに言語活動の充実を図りつつ、心を落ち着かせる時間をもたせるという目的から、朝読書や視写にも取り組んでいる。

#### ア 朝読書

朝の10分間、全校統一の時間を設けて朝読書の時間を設定し、静寂な時間の中で各自が選んだ本を読む。授業に臨む前に読書の時間を設けることで、心を落ち着かせ、集中力を高めることができている。そのような時間を設けることで、基本的な生活習慣が定着している。また、普段本をあまり読まない生徒も本を選んで読むきっかけとなり、読書推進活動につながっている。

#### イ 視写

視写ワークならびに本校独自のプリントを使用して、週に1回、10分間の視写を行っている。静かに書き写すことで、読み書きの力の育成と、心を落ち着かせる効果が期待できる。また、文の構成や語彙力の向上にも効果が表れている。

#### ウ 図書ボランティアによる読み聞かせ

保護者や地域のボランティアの方々を募り、読み聞かせを定期的に行っている。読んで聞かせたい本の中から聞かせたい部分を選び、10分間で行っている。図書室との連携を図り、読み聞かせで取り入れた本を目立つところに置くなどして、積極的な読書推進活動につなげている。

<例 2年生読み聞かせ図書(2月)>

書名	著者名
『有頂天家族』	森見登美彦
『言葉の力』『織と文』	大岡信/志村ふくみ
『ひょっこりひょうたん島』『ゆきんこ』	ロシアの昔話
『The MANZAI』	あさのあつこ
『みぞれ』から『拝啓ノストラダムス様』	重松清



## 3 成果と今後の課題

朝読書の習慣により、本がより身近になり、読書を好む生徒が増え、休み時間も本を読んでいる生徒が数多く見られる。また、視写においては、中学校時代に読ませたい名文を選んでいるので、読み書きの力と集中力が少しずつ身に付いてきている。

読み聞かせを実施していただいた保護者、地域の方々へ生徒が贈ったお礼の手紙では、「今まで読まなかったような本に興味をもちました。」「読み聞かせで続きが気になり、図書室に通うことが多くなった。」「心が落ち着くので良い時間を過ごせています。」などの言葉が書かれており、心の安定、読書の幅を拓けることにつながっているといえる。

今後の課題としては、ボランティアの方々の確保や効果の検証や広報等、学校側のコーディネートの工夫が要諦として挙げられ、円滑な運営を図る必要があると考える。